

第三篇 絶対的剰余価値の生産

第五章 労働過程と価値増殖 第一節 労働過程

2013.5.24 伊藤彰子

*労働はまず第一に、人間と自然とのあいだの一過程である

→自然素材を生活のために使用しうる形態において獲得するために、身体のもっている自然力…腕や脚、頭や手を動かす

⇒自然を変化させると同時に労働者自身の潜在能力を発現させ、その活動を統御させる

*労働過程の終わりには、すでに労働者に観念的には存在していた結果が出てくる

→人間にのみ属する場合の労働 (ex.蜘蛛や蜜蜂との相違)

⇒労働者は行動の仕方を規定し、自身の目的を実現する

*労働過程の単純な諸要素…目的に合致する活動, 労働そのもの, その対象, その手段

・労働対象…労働によって、大地との直接の関連から引き離されるにすぎないもの
(ex.原始林で伐られる木, 鉱脈から裂き取られる鉱石)

・原料…すでに過去の労働によって濾過されているもの
(ex.すでに裂き取られて洗鉱される鉱石)

一切の原料は労働対象であるが、労働対象は労働によって媒介された変化を受けているときにのみ原料

・労働手段…労働者が自己と労働対象との間に置き、この対象に対する活動の導体として役立つ物または諸物の複合体

・土地…生活必需品倉庫, 労働手段の本源的な武器庫
一つの労働手段

農業においては一連の他の労働手段と高度な労働力の発達を前提

*労働手段の使用と創造…特殊人間的労働過程を特徴づけるもの

・労働手段＝労働が行われる社会的諸関係の表示器

→何が作られるかではなく、いかにして、いかなる労働手段をもって作られるかが
経済上の諸時代を区別

- ・労働手段ー 骨格系統, 筋肉系統…機械的労働手段
 - 決定的な社会的生産時代の特徴を示す
 - ー 脈管系統…管, 槽, 籠, 壺 (労働対象の容器)

*労働過程…生産物となって消失

生産物…一つの使用価値 形態変化によって人間の欲望に適合するものと
された自然素材

- ・生産物の立場から見ると 労働手段と労働対象 → 生産手段
労働そのもの → 生産的労働

*生産物は労働過程の結果であるのみでなく、同時にその条件でもある

- ・全ての産業部門…すでに労働生産物である対象を取り扱う
- ・原料…生産物の主要実体または補助材料
 - 補助材料…労働手段によって消費(ex.石炭が蒸気機関によって消費)

*同じ生産物が種々の労働過程の原料となりうる

- 消費のために完成した形態で存在する生産物が他の生産物の原料ともなりうる
(ブドウがワインの原料となるように)
- 原料, 労働手段, 生産物として現れるかは労働過程における位置転換とともに
諸規定も変わる
- ⇒生産物は、生産手段として新たな労働過程に入ることによって、生きた労働の
対象的要素として機能するにすぎない

*現在ある生産物…労働過程の結果のみならず存立条件

- 労働過程への投入=生きた労働との接触
- 過去の労働の生産物を使用価値として維持し、実現するための唯一の手段

*労働…素材的要素, その対象および手段を消費 → 消費過程, 生産的消費

*労働過程… ・使用価値を作り出すための目的に合致した活動

- ・人間の欲望のための自然的なものの取得
- ・人間と自然とのあいだの物質代謝の一般的条件
- ・人間生活の永久の自然条件
- ・人間の一切の社会形態に等しく共通なもの

* 資本家による労働力の消費過程

2つの特有な現象

(i) 労働者は、彼の労働を所有する資本家の管理の下に労働

(ii) 生産物は資本家の所有物

資本家は労働力に生産手段を付け加えることによつてのみ
労働力を消費することができる

【論点】

- ① ・ 資本家による労働力の消費過程(i) について ~~資本家は労働力を管理して生産するが、労働者は労働力に生産手段を付け加えることによつてのみ労働力を消費することができる~~
- ② ・ 資本家の管理の下に行われる労働過程とそうでない労働過程での労働者の異なる目的について
- ③ ・ 労働そのものを 生産的労働 と規定する問題点について

① 「資本家による労働力の消費過程」 - 管理 の問題

③ 「生産的労働」の概念について (生産物) を生産して労働を消費するが、「物的生産」の消費は何か?

I

(阿部文士)

解釈としては、物的・非物的 (A) サービス

自己のため・他人

生産的・非生産的

商品生産・非商品生産

剰余価値生産

II. 生産

S.198 労働力の生産 (第4章)

「労働力の生産」の区別

個人的消費 - 生産的消費

労働は、